問合せ 総合企画局 総合政策室 ☎ 075-222-3033 FAX 075-212-2902

東海道本線

() 伏見稲荷大社

名神高速道路

平和の尊さを考える一戦後80年を迎えて一

先の大戦では京都にも戦火が及び、多くの尊い命が失われました。 空襲をはじめ、京都に現在も残る戦跡などの一部をご紹介します。



サイレン塔

現在の船岡山公園の山頂付近に残る塔は、戦時中、サイレン 塔として、空襲警報を鳴らして いたとされています。

太秦空襲

昭和20 (1945) 年 4月16日にあったと される空襲です。2人 が犠牲となり、多くの 方が負傷されました。

京都は原爆投下の候補地のひとつだったとされています。もし投下されていた場合、爆心地から2km以内は壊滅的な被害を受けたと推測されます。

昭和19 (1944) 年 から翌年にかけて、 空襲による延焼を 防ぐため、五条通、 御池通、堀川通など で約1万戸の建物 が取り壊されました。 (建物疎開)



西陣空襲

昭和20 (1945) 年6月26日に空襲があり、43人が犠牲となり、300戸ほどの家屋が被害を受けました。



▲今年の6月26日に空爆被災を 記録する碑で行われた献花式 (辰巳公園)

市役所本庁舎の屋上には、戦時中、防空のために設置された 高射砲台座が残されています。

陸軍第十六師団駐屯地

戦時中、深草一帯には陸軍(師団)の駐屯地がありました。現在も、当時の施設や、師団にちなんだ名前が残っているところがあります。



▲師団街道・第一軍道の標識



伏見稲荷 龍谷大前

▲第十六師団司令部庁舎 (現・学校法人聖母女学院本館)

馬町空襲

昭和20 (1945) 年1月16日に あった京都で最初の空襲です。 34~40人余りが犠牲となり、 50人余りが負傷されました。



監修:佛教大学名誉教授 原田 敬一氏



節目の年に、平和の大切さを見つめなおしましょう。



